

「基礎プログラミングの講義が今後どのように人生に影響するか」

c1071724 長谷川 朋宏

私は、二年生の必修科目である「基礎プログラミングⅠ、Ⅱ」の講義を通じて非常に多くの事を学びました。私のIT技術は、インターネットやメールを利用したり、好みの音楽を流したり、文書を作成するなど、多くの人が出来ている使いこなす程度でした。私のパソコンのレベルは初級者と言うのも憚られるほどの、「小学生」レベル(今日の小学生は優秀であるので小学生レベルと言うのも申しわけないが)以下の、幼稚なレベルでしかなかったもので、公益大に入学したら、パソコン系の講義は必死で頑張ろうと入学以前は考えていました。一年次の「情報リテラシー1、2」の講義は初心者向けの授業で目標としては、「パソコンの使い方に慣れて、楽しく利用出来る。」「キー入力を習得する」「インターネットのマナーを知る」「電子メールの送受信を習得する」などの基礎の基礎であったのでのんきに取り組みましたが、第3回目あたりでUNIXのOSで動くプログラムを使用するようになって、早くもパソコン系の講義の取り組みに黄信号が点灯しました。なんとか、いっぱい、いっぱいながらも付いて行く事ができ、いよいよ二年次の「基礎プログラミングⅠ、Ⅱ」の講義が不安を抱える中、始まりました。ここで私は、「未知との遭遇」を果たしました。私は、何事にも「努力」する事には自信があったので、どんな事でもやり遂げる自信を持っていました。しかしこの講義では、全く「努力」が通用しないのです。そこで知り合いや、出来る人から教えをこい、何とか課題をこなして行く事ができました。そのことにより、パソコン技術もさることながら、協調性や、友情などの、人間性が成長しました。

後期で学習した、CGIでは、RUBYの可能性を感じました。CGIプログラムを使う事により、占い、クイズ、ゲーム、詰碁、アンケートなど様々なプログラムを作成することが出来てすごいと、思いました。